

講義名	対)社会調査演習 (履修条件要確認)			授業形態	
担当教員	栗田 真樹/桑原 桃音/脳 穂積	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

社会調査法のうち 質問紙調査法 フィールドワーク 内容分析の方法を用いながら人々の生活に関する諸問題に関する調査演習を行なう。具体的な対象としては、人々の消費の場であり、生活空間でもある「フードマーケット」や「商店街」を取り上げる予定である。演習Iでは、フィールドワーク、内容分析を中心にして、問題の所在・設定から始まり、仮説・モデルを構成し、ワーディング、調査票のデザイン、サンプリングまでの調査の手順・技法を、実践的に修得することを目的とする。

到達目標

・フィールドワーク、内容分析を中心にして、問題の所在・設定から始まり、仮説・モデルを構成し、ワーディング、調査票のデザイン、サンプリングまでの調査の手順・技法を、実践的に修得し、活用できる。
・調査票もしくはフィールドノーツを作成できる。

提出課題

演習Iの終了時に 実査に用いる調査票あるいは フィールドノーツの提出を義務付ける。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

授業内で講評・解説します。

評価の基準

出席・平常課題・グループへの参加状況等を総合して評価する。

履修にあたっての注意・助言他

社会調査士科目の必修科目であるので、社会調査士資格希望者はこの科目とともに、同年度開講の「社会調査演習II」も必ず受講すること。なお「社会調査演習I」を履修していなければ「社会調査演習II」は履修できない。

授業時間外に演習活動の時間を設定する可能性があるため、その点を踏まえて履修すること。

事前に社会調査士科目(A領域-F領域)を3科目以上単位修得しておくこと。

事前申込制とするので、履修希望者は上記の条件を満たしたうえで申し込み手続を行うこと。

教科書

・ 特には指定しない。

参考図書

その他

随時配布、紹介する。

授業計画

- 1 はじめに 演習のイントロダクション
- 2 問題の所在、モデル、仮説
- 3 予備的フィールドワーク
- 4 自己の仮説、モデルの構築
- 5 各自の仮説と調査方法の選択
- (質問紙調査、フィールドワークのいずれかのコースを選択)
- 6 調査票の設計
- 7 インタビューの方法
- 8 サンプリング
- 9 対象の確定と資料収集及び検討1
- 10 サンプリング
- 11 調査票の作成
- 12 フィールドワークの手順
- 13 調査票の作成2
- 14 実施のための交渉
- 15 フィールドワーク1
- 16 調査票の作成4
- 17 フィールドワーク2
- 18 調査票の作成5
- 19 フィールドワーク3
- 20 結果の検討と報告作成1
- 21 結果の検討と報告作成2

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> ア：PBL(課題解決型学習)	<input type="radio"/> イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間(2時間×15回)、予習・復習で60時間(4時間×15回)です。予習・復習等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。具体的には、授業前に各回の授業内容について文献やインターネットを検索する等情報収集をしておいてください(2時間)、また授業後に各回の授業内容を復習し、要点をまとめること。疑問点があれば質問できるように記録しておいてください(2時間)。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

・社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
・統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会貢献活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。

以上の学部のディプロマポリシーを達成するための調査能力を、演習授業を通して修得することを目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

対面授業(面授授業)を基本としますが、新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、オンライン授業(「同時双方向型」および「オンデマンド型」)を行います。スマートフォンで対応できることを基本としますが、カメラ付きのPC、タブレットの活用を推奨します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり(桑原・脳・栗田は三名とも「専門社会調査士」資格を有する。また脳は社会調査に基づくマーケティング会社を経営している)。これらの経験に基づいて社会調査演習を指導します。

備考
